

日本ハーシェル協会1999年年報

協会の活動

3月13日 英国ウィリアム・ハーシェル協会年会・講演会に参加

8月7日-18日 ヨーロッパ日食とイギリスの旅

フランスとルーマニアに別れて皆既日食を観測後、ロンドンとバース（イギリス）を訪問。

11月3日 創立15周年年会

12月10日-13日 カロライン・ツアー（1）

北海道夕張郡長沼町で七宝展・講演会に参加。

会報

第90号（1月）

第91号（3月）

第92号（5月）

第93号（7月）

第94号（9月）

第95号（11月）

第96号（12月）

The Herschel Society of Japan Yearbook 1999

Activities of the Society

13 March: Took part in the Annual General Meeting and Lecture of the William Herschel Society, UK.

7-18 August: Total eclipse and English tour

Observed the total solar eclipse separately in France and Romania, and visited London and Bath, UK.

3 November: The Annual Convention

10-13 December: Caroline Tour (1)

Took part in the cloisonné exhibition and lecture held in Naganuma, Hokkaido.

Newsletters

Issue No 90 (January)

Issue No 91 (March)

Issue No 92 (May)

Issue No 93 (July)

Issue No 94 (September)

Issue No 95 (November)

Issue No 96 (December)

ニューズレター第90号（1999年1月）

ヘッドライン

イギリスのハーシェル博物館とわが協会、インターネットにホームページ開設
英国ハーシェル協会会報第54号（1997年秋号）に、[ハーシェル博物館のホームページ](#)開設のお知らせが掲載されました。また、このホームページの開設も紹介されました。

14周年年会を開催

「注目記事」で紹介しています。

大英国展 7フィートハーシェル望遠鏡

協会会員の石橋力さんから、7月末に東京・有楽町での「大英国展」に出展されていたハーシェルの7フィート望遠鏡を見ての感想が寄せられました。

来春3月 英国ハーシェル協会の年会と講演会 グリニッチも訪ねませんか

英国のハーシェル協会の年会・講演会が1999年3月13日に開催されるのに合わせ、バスとロンドンを訪問するツアーが提案されています。英国ハーシェル協会との懇談、ハーシェル博物館の見学などの企画です。

注目記事

14周年年会を開催

わが協会の年会は、11月3日17時から東京・東池袋で開催、木村代表幹事がニューズレター第84号～第89号をもとに、最近の活動全般と、10月末のハーシェル博物館など訪問（詳細次号）について報告、重久会員が最後となった日本アマチュア天文研究発表大会で行われたハーシェル演奏会、成田会員がハーシェルの星観望会の状況を話されました。次いで3月のツアーをはじめ、来年度の事業計画を相談しました。ニューズレターの発行6回は従前通り、国内の天文関係施設の見学、ハーシェルの星（天王星）などの観望会にも力を注いでいく予定です。

休憩後の19時から、サンシャイン・プラネタリウムで「文化の日記念講演とプラネの夕べ」に参加しました。お話は長沢工先生の「11月18日早朝のしし座流星雨」。続いて秋の投影「しし座流星雨の奇跡」を楽しみました。藤井サンシャイン・プラネタリウム館長（協会会員）にお礼申し上げます。

ニューズレター第91号（1999年3月）

ヘッドライン

ハーシェルに関するウェブサイト

協会会員の中村幸夫さんが、このホームページを紹介してくださいました。イギリスの[ハーシェル博物館](#)や、その他のハーシェル関連サイトのURLも紹介されています。

- <http://www.seds.org/messier/xtra/similar/herschel.html>
- <http://www.willbell.com/software/hypersky/herschel.html>

バースへの旅： ヒリアード夫人、シムズ夫人に会い、ハーシェル協会長らと懇談
「注目記事」で紹介しています。

"DO THEIR BEST TO LEAVE THE WORLD WISER THAN THEY FOUND IT"

ジョン・ハーシェルが友人に書き送ったという標記の言葉の出典を教えてくださいとの依頼がありました。内村鑑三は「わが愛する友よ、我々が死ぬときには、我々が生れたときよりか、世の中を少しなりとも良くして、往こうじゃないか」と訳しています。

飯沢能布子 北国の七宝展 早春に広島と津田沼で開催

昨年夏に東京で好評を博した飯沢能布子さん（協会会員）の七宝作品の個展が開かれます。

- 2月4日～9日 丸善・広島本通ギャラリー
- 3月10日～16日 丸善・津田沼店3Fギャラリー

注目記事

バースへの旅： ヒリアード夫人、シムズ夫人に会い、ハーシェル協会長らと懇談

昨秋（1998年）、英国へ正味6日間の旅をして、春から半年以上延ばしていた約束を果たし、溜まった用事を済ませました。空港到着早々、ロンドンまで僅か15分の高速列車は驚きでした。

10月28日11時に成田発、16時間後（時差のため、同日の18時）には首都から西に百数十キロ離れたバースの常宿で旅装を解くことができ、快適なスタートを切りました。

29日昼近く、ハーシェル・ハウスを買い取り同協会に寄付したL. ヒリアード博士（1997年1月17日死去）夫人を見舞いました。95歳の誕生日を迎えた夫人は老人ホームで療養中で、朝9時に電話したとき

応対されたシスターの言葉通り、温かい日差しが入る部屋で迎えてくれた夫人はとても元気で、1年半ぶりの再会を喜び合い、一緒にスープから始まるフルコースの昼食を楽しみました。ご主人とのお別れは忘れ難い様子で、「召されたときは本当に素晴らしい笑顔でした。笑顔で亡くなった人を見たのは初めて」と何度も繰り返されました。かつて希代の文学者W. ベックフォードの由緒ある塔も買い取って保存トラストに寄付したご夫妻の生い立ちを「ニューズレター第80号に続いて掲載したいので、これからもお書き下さいませんか」とお願いしました。（同紙1ページ、博士の散骨のことなど夫人の手記は永久保存ものでしょう）。実現が期待されます。合本（第48号～第85号）を差し上げたところ、用意してあった上記文学者の出版されたばかりの伝記、ティモシー・モール著「ウィリアム・ベックフォード」（ジョン・マレー刊、1998年）を頂戴し、再会を固く約して13時すぎにお暇しました。ご自分からダイヤルしてタクシーを呼んで下さったのです。

30日午後2時、プラッツ・ホテルでW. ハーシェル協会の名編集長シムズ氏（1995年9月21日死去）夫人とお会いして、合本（第48号～第85号）を差し上げました。関係記事を懐かしげに拾い読みされた夫人は、ご主人亡きあと何時も夜遅くまで聞こえていたタイプの音が今も耳元で・・・とのこと。花作りが最良の癒しです、と微笑まれ、手入れが行き届いて見事に咲き乱れた庭園の写真を何枚も見せていただきました。

同日午後3時、前日に続いてハーシェル博物館へ。協会の編集長を継いだD. フィリップス氏及び学芸員のD. ジェイムズさんと意見交換。フィリップス氏とは双方の定期刊行物（会報とニューズレター）の記事交流など、またジェイムズさんとは2000年に迎えるカロライン・ハーシェルの生誕250年記念事業が主なテーマでした。どちらも近い将来に具体化を図っていく相談をしていくことで一致しました。今後が楽しみです。

つづいて4時15分、王立リューマチ病院へ。協会会長F. リング教授とスイスの天文アマチュア・A. モーラ氏と面会。リング教授はハーシェル博物館の将来構想を語ってくださり（いずれ発表できましょう）、モーラ氏は長い期間費やして調べ上げたハーシェル望遠鏡全ての情報のCD-ROM化の完成が間近いことを教えてくれました。モーラ氏は1957年にスラウのハーシェル邸「オブザヴァトリー・ハウス」（1961年に取り壊し、現在はコンピュータ会社ICL - ニューズレター第42号参照）を訪ねて、当時同邸在住のハーシェル子孫と会えたときは英語が不自由だったためもあって十分に話ができず、早々にお暇したとのこと。また1970年代には荒れ果てていたバースの天王星発見の家（現在のハーシェル博物館）を捜し当てたとのこと。ドイツのハノーバーではガルテンキルヒェにあるカロラインのお墓を訪ねても誰も知らなかったという苦労話も伺いました。

31日にロンドンへ。11月1日は観光バスでコッツウォルドの小村散策を楽しみ、3日のわが協会年会に間に合うよう、早々に英国を後にしました。（S. 木村・記）

ニューズレター第92号（1999年5月）

ヘッドライン

ハーシェル7フィート鏡いま何処

スイスのアマチュア天文家A. モーラ氏が、ハーシェルの製作した望遠鏡49台のカタログを完成しました。デジタル・アーカイブに収録しています。

ハーシェル植物誌： ケープタウンにおけるジョン・ハーシェル卿夫妻（1834-1838年）

「注目記事」で紹介しています。

注目記事

ハーシェル植物誌： ケープタウンにおけるジョン・ハーシェル卿夫妻（1834-1838年）

著者：ブライアン・ウォーナー、ジョン・ルーク

発行：[プレントハースト・プレス（ヨハネスブルグ）](#)

（インターネットで出版情報を提供しています。）

定価：125ポンド

南アフリカから、上記の新刊図書のパンフレットが届きました。ウォーナー教授はケープタウン大学天文学科主任教授で、専門は変光星ですが、ジョン・ハーシェルらの業績と生涯に造詣が深く、多数の研究書があり、'92年3月の生誕200年記念シンポ等の記念行事を主催。ルーク博士はケープタウンの郊外キルステンボッシュにある国立植物研究所所長です。同上の行事に日本から参加した故石田会長ほかの協会員は、特にお二人には非常にお世話になりました。本書について、パンフレットの言葉によれば、

「ケープタウン滞在中、ジョンと彼の妻マーガレットはケープタウンの植物相の美しさと同様に魅了されていた。それは当時はまだ評価されずにいた大きな財産であった。ジョンはフェルドハウゼンの自宅に固有種の植物園を造営しただけでなく、彼の妻とともに植物画の優れたコレクションを製作した。これらはジョンが...カメラルシダ（写生機）を使って下描きし、マーガレットが水彩で彩色した。/ 現在これらのほとんどが個人所有のため...、ジョンのカメラルシダによる風景画の多くが...出版されているにもかかわらず、植物画はほとんど複製されることがない。本書は...現在知られている132枚のうち112枚を詳細に複製した、もっとも充実したコレクションとなる。...フェルドハウゼンの植物園を

描いた数枚など...、ジョンがカメラルシダを使ったケープタウンの写生画も含まれている。」

ニューズレター第93号（1999年7月）

ヘッドライン

W. ハーシェル協会の年会と講演会（3月13日）

「注目記事」で紹介しています。

バースのロップ・エインズリーさん、世界各地にある温泉地めぐりに出発

英国バース在住の著述家が、世界中の温泉ゆかりの地を自転車で訪ね、来年4月には別府を目指すとのこと。また、バースでは2000年を記念して、温泉好きのローマ人の伝統を復活する計画が進んでいる由。名付けて「ミレニアム温泉計画」。

エインズリーさんのホームページ：<http://www.futurenet.co.uk/futurenet/people/RobAinsley/tour>

注目記事

W. ハーシェル協会の年会と講演会（3月13日）

英国ハーシェル協会の年会と講演会が、去る3月13日（土）17時30分、バースのポンプ・ルームで開かれ、わが協会からは山本健一・木村精二の2名が参加しました。

始めに、会長・F. J. リング教授の「1998年度会長報告」の一部を紹介します。

「・・・まもなくハーシェル博物館のための2つの刊行物を公表する予定です。一つはP. ムーア氏による天王星に関するもの、もう一つはF. ブラウン氏による『音楽家としてのカロライン・ハーシェル』です。待たれて久しいハーシェル望遠鏡のCD-ROMは完成まで数週間です。また、A. マウアー氏がわざわざこのCD-ROMにスキャンして取り込まれた珍しい写真を持って英国においでになったことに感謝します。我々はこのCD-ROMに期待しているのですが、有志でデータ作成にあたっていたコンピュータを扱う学生が交代してしまったために遅くなっています。グラモーガン大学のL. スタイルズ氏がこの会議から3ヶ月のうちにCD-ROMプリントのための完成形にしてくれるでしょう。・・・またカロライン・ハーシェルの回想録が2000年に間に合うように再版されることも期待しています。・・・」

続いて会計報告、委員改選など。議題の締め括りに「日本ハーシェル協会からひとこと」の題で、

筆者が数分間レポートしました。その要点は -、

「・・・1997年の秋にわが協会と日本アマチュア天文協会はハーシェル・コンサートを開きました。ウィリアムのシンフォニー第1番とバイオリン協奏曲が昭和音楽大学の室内楽団によって演奏され、日本全国から集まったアマチュア天文家を中心とする観客を楽しませました。これがそのコンサートのCDで、ウィリアム・ハーシェル協会に進呈しようとするものです。・・・もう一つの重要な活動は、わが協会の非常に積極的な会員のひとりで北海道のアトリエ村にお住まいの飯沢さんが創作された七宝作品の一連の展覧会で、1998年の7月すなわち去年の夏には東京の、日本でもっとも有名な出版社である丸善のホールで展覧会が行われました。カロライン・ハーシェル生誕250周年を記念して、飯沢さんはこの女性天文学者に関連した七宝の小品の製作に打ち込んでおられます。（写真を示す）これは私が飯沢さんの最近の傑作である直径11インチの絵皿を撮った実物大の写真です。ちょうど3日前にも、また展覧会が千葉市にある丸善の支店のホールで始まり、観客の目と心を引きつけています。

さて、われわれの今後のプランについてですが、カロラインの生誕250周年を記念して、（来年のいつか）東京にあるプラネタリウムで特別展を行う予定です。この展覧会は飯沢さんの作品、もうひとりの会員である秋田市にお住まいの加賀谷氏が収集された記念切手、その他ハーシェル関連の展示物で構成します。

最後になりましたが、こちらのハーシェル博物館（協会）で来年特別展を開催し、わが協会に援助あるいは参加をさせていただけないかということをご提案します。われわれは（はるばる日本から）前述の資料を運んでくることもできます。日本でと同様こちらでも、それらの展示物を見る楽しみを共有したいと思います。」

同日19時15分、恒例の年次講演会のテーマは「ハッブル宇宙望遠鏡と進化する宇宙」、講師はケンブリッジ大学のロングエア教授でした。

年会とレクチャーの2日後（3月15日）、リング博士と懇談しました。近いうちに委員会と打ち合わせてから発表予定ですが、来春3月ごろ、王立協会を中心に、カロライン・ハーシェル生誕250周年を記念して、特別展・記念講演・ハーシェル一族の集い（レユニオン）等を計画していく、とのことでした。特別展には日本から七宝焼絵皿・郵便切手のコレクションなどの展示と併せて、カロライン記念の作品即売も検討してみても、との具体的な提案があり、展示品リストの提出を約しました。 - 木村 -

ニューズレター第94号（1999年9月）

ヘッドライン

今、グリニッチでは

去る3月のイギリスツアーに参加された木村代表幹事による、グリニッチの近況レポートです。

ハーシェルの星観望会

10月16日（土）に、協会会員の成田さんが代表を務める多摩天体観測所（川崎市）で天体観望会を実施します。

ヨーロッパ日食とイギリスの旅

「注目記事」で紹介しています。

注目記事

ヨーロッパ日食とイギリスの旅

8月11日に皆既日食帯がヨーロッパの中央を横断します。皆既時間は最長でも2分半ですが、大都市を幾つも通り、久し振りとあって、人気が高まっています。イギリスでは4サロス前、つまり1927年以来で、まさにハレー彗星並みの稀な天文現象でしょう。

この皆既日食は大西洋上に始まり、通るのはイギリス、（イギリス海峡）・フランス・ルクセンブルグ・ドイツ・オーストリア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア・（黒海）・トルコ・イラク・イラン・パキスタンです。大都会はルクセンブルグ・ミュンヘン・ザルツブルグなど。

日本からの観測団は、いつもの例に倣って、エイジェントのお仕着せ旅行が大半です。わがハーシェル協会では、「ルクセンブルグで皆既日食を見たあと、帰りはイギリスへ。ロンドンではグリニッチと自由行動。バースでは地方文化と田園を楽しみませんか」 - 口コミで身近な方にお誘いしたところ、10人を越す希望者がありました。ハーシェル博物館の展示品W. ハーシェル作の光学機器を借りて手に取り、2, 3日の細い月と天王星を見る計画も立てています。ウィリアム・ハーシェル協会のF. リング会長とは、来春のカロライン・ハーシェルのバースでの展示会について打合わせる予定です。

先発は8月7日、後発は2日後の9日11時に、12人がBA6便で出発します。次号からの報告記事にご期待ください。

ニュースレター第95号（1999年11月）

ヘッドライン

クニッピン夫人からJ. ハーシェルへの書簡

デジタル・アーカイブの「ハーシェル関連史料」に収録しました。

ヨーロッパ日食とイギリスの旅（２）

8月に行われた協会主催のツアーのレポート第2回です。

グリニッジとロンドン科博を訪ねて（１）

上記ツアーに参加された協会会員の石橋力さんが、ロンドンでの手記をお寄せくださいました。

北海道ハーシェル・ツアーのお知らせ

協会の後援により北海道・長沼町で12月に行われるカロライン・ハーシェル記念展と講演会を目的とした、ハーシェル・ツアーへのお誘いです。飯沢能布子さん（協会会員）の七宝焼作品が出展されます。

第15回年会のお知らせ

日本ハーシェル協会第15回年会を、11月3日に東京・東池袋のサンシャインシティ・ワールドインポートマート会議室で開催します。

注目記事

クニッピン夫人からJ. ハーシェルへの書簡

デジタル・アーカイブの「ハーシェル関連史料」に収録しました。

ニューズレター第96号（1999年12月）

ヘッドライン

カロライン・ハーシェルの彗星（１）

カロライン・ハーシェルが彗星を発見した当時の観測状況をシリーズで紹介します。第1回は協会会員の長谷川一郎さんからのお手紙に基づき、カロラインが4番目に発見した1790H1彗星を取り上げます。

ヨーロッパ日食とイギリスの旅（３）

「注目記事」で紹介しています。

完訳「ダゲレオタイプ教本」

ダゲレオタイプ（銀板写真）を発明したダゲール自身が1839年に著した「教本」が中崎昌雄さん（協会会員）によって初めて邦訳され、朝日ソノラマから出版されました。協会会員の藤井常義さんの投稿です。

W. J. ハーシェルの「指紋法についての書簡」

ウィリアム・ハーシェルの孫、ウィリアム・ジェームズ・ハーシェル(1833-1917) が、自ら考案した指紋法をインド・ベンガル州の刑務長官に提案した手紙を紹介しています。協会会員の佐藤明達さんの投稿です。

15周年年会を開催

11月3日に日本ハーシェル協会の年会が行われ、1999年の活動報告、2000年の事業計画などが話し合われました。

注目記事

ヨーロッパ日食とイギリスの旅（３）

8月13日16時、バースのハーシェル博物館を訪ねた会員の成田・石橋・木村は、受付のブラウンさんと面会し、一般展示を見学したあと、W. ハーシェルが天王星を発見したのと同型の7フィート反射望遠鏡の模型を丹念に見せていただきました。

17時、ウィリアム・ハーシェル協会のリング会長が来館、かねて手紙でお願いしてあった展示品のハーシェル製作の反射鏡（某大学から借用中）をケースカバーから出して手に取ることは、酸化の恐れがあり、またグリニッジから借りていた接眼鏡は急に返却を求められ、自分たちの自由にできず申し訳ない、とのことでした。

日食をフランスで曇られたリングさんは、石橋氏がルーマニアで取ったVTRをいかがと勧めたところ、早々にプラッツホテルへ。居合わせた数人とモニターで、雲の合間から姿を見せた皆既日食を鑑賞しました。

16日16時、木村は再びハーシェル博物館へ。我がグループ（小泉さんと下条さん）の館内案内役を務めたあと、リング教授と学芸員のジェームズさんを交え、来春のカロライン生誕250年記念展の打ち合わせ。会場は同館内とし、期日は関係者で調整中。当初通り3月が目標です。

日本からの展示品は、カロライン絵皿（ニューズレター第87号参照）ほかの七宝焼作品（飯沢さん）と、カロライン絵柄の記念切手（加賀谷さん）など。持参したブローチほか七宝焼記念品の試作品を前にして打ち合わせ、記念品の即売を相談しました。

Newsletter No 90 (January 1999)

Headlines

- **The William Herschel Museum in UK and our Society have each home page on the Internet.**
William Herschel Society (UK) announced in its Bulletin No 54 (1997 Autumn) opening the home page of the William Herschel Museum
(<http://www.comp.glam.ac.uk/pages/staff/bfjones/herschel/>). The opening of this site is also mentioned.
- **1998 annual convention**
Please refer to the **Main Article**.
- **A Herschel's seven-foot telescope**
Mr Tsutomu Ishibashi wrote his impressions to see a Herschel's seven-foot telescope in the Science Museum Exhibition held at the end of July in Tokyo.
- **Let's visit Greenwich as well as Bath.**
The Society suggests members to have a tour to visit Bath and London for William Herschel Society's Annual General Meeting and Lecture in 13th March, 1999. Meeting with William Herschel Society and visiting the William Herschel Museum are included in the tour plan.

Main Article

1998 annual convention

Our Society's annual convention was opened at 17:00 on 3rd November in Tokyo. Mr Kimura, the secretary-general reported recent general activities and visit to the Herschel Museum at the end of October (further report will appear in next issue). Mr Shigehisa reported Herschel Concert in Japan Amateur Astronomers' Conference, which had been held for the last time. Mr Narita talked about the Herschel's star observation meeting. Then we discussed activities plan for next year, including the tour to UK in March. The Society will issue six newsletters a year as in the past and will also intensively carry out visits to astronomical facilities in Japan and Herschel's star (Uranus) observation meetings, etc.

After taking a break, we attended "The Soirée of Commemorative Lecture on Culture Day and

Planetarium" which started at 19:00 in Sunshine Planetarium. Dr Nagasawa gave a lecture on "the Leonid meteor shower before dawn on 18th November". Then we enjoyed the autumn program of "the miracle of Leonids". We would like to express our thanks to Mr Fujii, the manager of the planetarium and a member of the Society.

English translation by Tatsuro Kimura

Newsletter No 91 (March 1999)

Headlines

- Web sites on Herschel

Mr Yukio Nakamura, a member of the Society introduces this home page. He also introduces other web sites related to Herschel, including [the William Herschel Museum](http://www.seds.org/messier/xtra/similar/herschel.html).

- <http://www.seds.org/messier/xtra/similar/herschel.html>
- <http://www.willbell.com/software/hypersky/herschel.html>

- Trip to Bath: meet Mrs. Hilliard & Mrs. Sims; talk to WHS's chief & visitor

Please refer to the **Main Article**.

- "DO THEIR BEST TO LEAVE THE WORLD WISER THAN THEY FOUND IT"

A question to the Society what is the source of the above words John Herschel wrote to a friend of his

- Nobuko Iizawa - "Cloisonné Ware from the Northern Country" exhibition

Exhibition of Ms Nobuko Iizawa's cloisonné works, which was held with popularity in Tokyo last summer, will be held in Hiroshima and Tsudanuma as well.

- 4th to 9th February - at Maruzen Hiroshima Hondohri Gallery
- 10th to 16th March - at Maruzen Tsudanuma 3F Gallery

Main Article

Trip to Bath: meet Mrs. Hilliard & Mrs. Sims; talk to WHS's chief & visitor

S. Kimura

English translation by Tatsuro Kimura

Last autumn I made a six full day trip to UK to fulfill my promises which I had postponed for more than half a year from last spring, and finished the pending matters. Just after my arrival to the airport it was surprising for me that the intercity train by which it takes only fifteen minutes to London.

I departed from Narita at 11:00 on 28th October and in sixteen hours (at 18:00 in the same day, due to the time difference) I could put up at my usual hotel in Bath in more than one hundred kilometer

distance to the west from the capital. It was a pleasant start of the trip.

Around the noon on 29th I visited Mrs Hilliard, whose husband Dr L Hilliard (death on 17th January, 1997) bought Herschel House to donate to the Society. She celebrated her ninety-fifth birthday and stayed in a nursing home. Mrs Hilliard welcomed me in a warmly sunlit room and was very fine as a sister told me over the phone when I rang her at nine o'clock in the morning. We were pleased to meet again after one year and a half and enjoyed a full-course lunch which started with soup. She told "He passed away with a really splendid smile. It was my first time to see a person passed away with a smile." so repeatedly that parting from her husband seemed still unforgettable for her. I asked Mrs Hilliard to keep writing about lives of Dr and Mrs Hilliard, who used to buy Tower related to a distinguished writer W Beckford to donate to the preservation trust as well, for publishing in our newsletter successively to No 80. (I believe her note in page 1 about scattering of ashes of Dr Hilliard, etc. is worth being recorded forever). I expect to be carried out. I presented her a combined book (No 48 to 85) and she was ready to give me a recently published biography of the above writer "William Beckford" written by Timothy Mowl (published by John Murray, 1998). We firmly promised to meet again and I left past 13:00. She herself kindly called a taxi for me.

At two o'clock on 30th I met Mrs Sims, whose husband Mr Sims (death on 21st September, 1995) was an excellent editor of W Herschel Society, in Platz Hotel and presented her a combined book (No 48 to 85). Mrs Sims longingly browsed through related articles and told me that she seemed as if she could hear typing sound her husband had made late at night everyday even after his death. She showed me numbers of photos of the beautiful garden blooming all over in her good treatment, saying with a smile that gardening was the best healing.

At three o'clock in the afternoon of the same day I visited Herschel Museum continuously from yesterday in the purpose of discussion with Mr D Phillips, the new editor of the Society, and Mrs D James, a curator. Main agenda of the discussion with Mr Philips was exchanging articles of the periodicals of both societies (bulletin and newsletter); and 250-year celebration of Caroline Herschel's birth in 2000 with Mrs James. We agreed to keep discussion to materialize these two plans in the near future. I look forward to future achievement.

At a quarter past four without a break I went to the royal hospital of rheumatism to meet Prof F Ring, chief of the Society, and Mr A Maurer, a Swiss amateur astronomer. Prof Ring told me about the future design of Herschel Museum. (I hope to have a chance to publish it.) Mr Maurer told me that data of all Herschel's telescopes he had spent long period to investigate thoroughly would be soon competed in a CD-ROM. He also told me that he had visited Herschels' house "Observatory House" in Slough (which was demolished in 1961 and a computer company ICL is located in the site now. cf Newsletter No 42)

in 1957 and met descendants of W Herschel living in the house at that time, however he had been unable to talk with them enough due to his insufficient English and left there in haste. In 1970s He found the ruined house in Bath where W Herschel discovered Uranus (Herschel Museum at present). Mr Maurer also told me about his hardships to visit Caroline's tomb in Gartenkirche in Hanover, Germany as anyone did not know the tomb.

I moved to London on 31st. I enjoyed a short trip to a small village in Cotswold by a sightseeing bus on 1st November and left UK in haste in order to be in time for the annual convention of our society held on 3rd.

Newsletter No 92 (May 1999)

Headlines

- **Whereabouts of Herschel's 7-foot telescopes**

Mr A Maurer, a Swiss amateur astronomer completed a catalog of 49 telescopes manufactured by W Herschel. Please refer to **Digital Archive**.

- **Flora Herscheliana: "Sir John and Lady Herschel at the Cape, 1834 to 1838"**

Please refer to the **Main Article** in below.

Main Article

Flora Herscheliana: "Sir John and Lady Herschel at the Cape, 1834 to 1838"

Written by Brian Warner & John Rourke

Published by [Brenthurst Press, Johannesburg](#)

(More information is available on the Internet.)

Price £125

I received a brochure of the above new publication from South Africa. Prof Warner is the chair of the Department of Astronomy of the Capetown University. He, specializing in variable stars, has a profound knowledge of achievements and lives of John Herschel and others, has written many books of monographs and organized the symposium and other events celebrating the 200th anniversary of John Herschel's birth. Dr Rourke is the chief of the National Institute of Botany located in Kirstenbosch in the suburbs of Capetown.

The late Mr Ishida, the former Chairman of the Society, and other members who attended at these events from Japan received much assistance especially by Prof Warner and Dr Rourke.

The brochure says about this book as follows:

"While at the Cape, John and his wife Margaret were fascinated by the beauty and variety of Cape Flora - at that period a large unappreciated asset. John not only developed an indigenous garden at his home, Feldhausen, but also produced, together with his wife, an outstanding collection of botanical paintings. These were drawn by John using... the

camera lucida and painted in watercolour by Margaret. / As most of the paintings are in private collection... very few have been reproduced, although many of John's camera lucida landscape drawings... have been published. This book will be the most comprehensive collection... reproducing in fine detail 112 of the known total of 132 paintings... It also includes some of John's camera lucida drawings of the Cape, among them several of the garden at Feldhausen, ..."

English translation by Tatsuro Kimura

Newsletter No 93 (July 1999)

Headlines

- **Annual General Meeting & Lecture of W Herschel Society on 13th March**

Please refer to the **Main Article** in below.

- **Ainsley visits "Baths" around the World**

Mr Rob Ainsley, a writer living in Bath, UK is traveling by bicycle places famous for hot springs around the world and is going to reach Beppu, Japan next April. In Bath a plan to revive the Roman tradition to enjoy hot springs in the name of "Millennium Hot Spring Project".

Mr Ainsley's home page: <http://www.futurenet.co.uk/futurenet/people/RobAinsley/tour>

Main Article

Annual General Meeting & Lecture of W Herschel Society on 13th March

Annual General Meeting and Lecture of W Herschel Society was held at 17:30 on Saturday, 13th March, at the Pump Room in Bath. Two members of our Society, Mr Ken'ichi Yamamoto and Mr Seiji Kimura attended there.

First I introduce a part of "Chairman's Report for 1998" made by the Chairman Prof F J Ring.

"... we shortly expect to announce two publications for the museum, one on Uranus by P Moore, the other on 'Caroline Herschel as a Musician' by F Brown. The long awaited Herschel Telescope CD is a few weeks from completion, and we do thank A Maurer for visiting UK specially with rare photographs which were scanned into the programme. Our hopes for this CD were delayed due to a change in the volunteer computer student who has been building the programme. Mr L Styles of the University of Glamorgan is hoping to have the final form of the CD for printing within 3 months from this meeting. .. We are also hoping to have a reprint of Caroline Herschel's Memoir in time for the year 2000. ..."

Succeedingly made a financial report and a reelection of the committee members etc. At the end of the agenda, I made a few minute report in the title of "A Few Words from the H S J (Herschel Society of

Japan)". Its outline was as follows:

"... In autumn 1997, our Society and the Japan Amateur Astronomers' Convention held a Herschel Concert. William's Symphony No 1 and a violin concert were played by the classical chamber music ensemble of Showa Music College. This delighted the audience, mainly amateur astronomers who gathered from all over Japan. Here is the CD of the concert I'd like to present to the William Herschel Society. ... Another important activity was a series of exhibitions of enamel art created by Ms Iizawa, one of our very active members who lives in the artist village in Hokkaido. In July 1998 or last summer, an exhibition was held in Tokyo, at the Hall of Maruzen, one of the most famous publishing companies in Japan. To mark the 250th anniversary of Caroline Herschel's birth, Iizawa has devoted herself to producing enamel souvenirs connected with the lady astronomer. (Showing a photo) This is a real size photograph I took of her recent masterpiece, a plate of 11-inches in diameter. Just 3 days ago, another exhibition started at a Maruzen's branch hall in Chiba County, absorbing visitors' eyes and hearts.

Now, on our future plan. To commemorate the 250th anniversary of Caroline's, we are to hold special shows at planetaria (sometime next year) in Tokyo. The exhibits will consist of Ms Iizawa's works, special postage stamps, collected by another member Mr Kagaya in Akita County and some other objects connected with the Herschels.

Last but not least, let me suggest or recommend that the Herschel Museum (Society) here plan a special exhibition next year giving our society the honour to assist or join the event. We could bring (all the way from Japan) some of the above materials. We would like to share the pleasure of viewing the exhibits here as well as in Japan."

The title of the annual lecture which started at 19:15 on the same day was "the Hubble Space Telescope and the Evolving Universe" and was presented by Professor Longair of Cambridge.

We had a meeting with Prof Ring on 15th March, two days after the annual meeting and lecture. He mentioned that they would plan a special exhibition, a memorial lecture, a reunion of the Herschels, etc around next March sponsored mainly by the Royal Society to celebrate the 250th anniversary of Caroline Herschel's birth. They will announce these events after discussion with the Committee. He also made a specific suggestion for us to plan a spot sales of Caroline's commemoration goods in their special exhibition as well as display of the collection of enamel plates and postage stamps. So I confirmed with him to submit a list of exhibition works.

Newsletter No 94 (September 1999)

Headlines

- **Greenwich, now**

News from Greenwich reported by Mr Kimura, the General Secretariat of the Society, who participated the UK tour last March.

- **Let's observe Herschel's planet**

A notice on an observation meeting on 16th October

- **1999 total eclipse and English tour**

Please refer to the **Main Article** in below.

Main Article

1999 total eclipse and English tour

The total eclipse area will go across the central Europe on 11th August. The total eclipse will keep for two and a half minutes even at maximum, however, this eclipse raise people's interest very much, as the eclipse are will go over many major cities and a long time has passed since the last eclipse. Especially in the UK, the solar eclipse will be seen after four salos cycles. This means it will occur since 1927. We can say that it is an astronomical event as rare as Halley's Comet.

This total eclipse will start on the Atlantic Ocean and will go across the UK, (English Channel), France, Luxembourg, Germany, Austria, Hungary, Romania, Bulgaria, (Black Sea), Turkey, Iraq, Iran and Pakistan, including major cities such as Luxembourg, Munich and Salzburg, etc.

Although most observation tour groups from Japan will just follow travel agencies' ready-made plan as usual, we have our original plan to observe the total eclipse in Luxembourg and go to UK in the return way. "Visit to Greenwich and free time in London, and enjoyment of the local culture and the countryside scenery in Bath. " - I asked familiar people individually and more than ten people expressed their intention to participate the tour. We are planning to ask Herschel Museum to let us

take optical instruments made by W Herschel exhibited there in our hand, and observe 2, 3 days' new moon and Uranus. I am going to discuss with Prof F Ring, Chairperson of William Herschel Society, the plan of Caroline Herschel exhibition held in Bath in next Spring.

The first group will depart on 7th August and the second group on 9th, two days after. Twelve people in total will fly on BA6 at eleven o'clock. We will make reports on this tour in next and following issues.

English translation by Tatsuro Kimura

Newsletter No 95 (November 1999)

Headlines

- A Knipping's letter to J Herschel

Contained in "Historical Materials on the Herschels" in **Digital Archive**

- 1999 total eclipse & English tour (2)

Part two of the report on the tour organized by the Society in August

- Visits to National Maritime Museum and London Science Museum

Mr Tsutomu Ishibashi, a member of the Society who participated in the above mentioned tour made a London report.

- Herschel tour to Hokkaido

A notice on the Herschel tour to attend the memorial exhibition and lecture for Caroline Herschel held in Naganuma-cho, Hokkaido in December, supported by the Society. Ms Nobuko Iizawa's (a member of the Society) cloissoné works will be exhibited.

- The 15th Annual Convention

The 15th Annual Convention of Herschel Society of Japan will be held on 3rd November in a meeting room in World Import Mart, Sunshine City in Higashi-Ikebukuro, Tokyo.

Main Article

A Knipping's letter to J Herschel

Contained in "Historical Materials on the Herschels" in **Digital Archive**

Newsletter No 96 (December 1999)

Headlines

- **Caroline Herschel's comets (1)**

A series of articles on the observation circumstances of Caroline Herschel's finding comets. Part one in this issue mentions to 1790H1 of her fourth comet, with quotation from a letter from Dr Ichiro Hasegawa, a member of the Society.

- **1999 total eclipse & English tour (3)**

Please refer to the **Main Article** in below.

- **Daguerreotype par Daguerre**

The first Japanese translation by Mr Masao Nakazaki (a member of the Society) of "Textbook of Daguerreotype" written in 1839 by Daguerre, its inventor himself was published from Asahi Sonorama. A contribution by Mr Tsuneyoshi Fujii, a member of the Society.

- **"A letter on the skin furrows of the hand" by W J Herschel**

William James Herschel (1833-1917), one of William Herschel's grandchildren, wrote a letter to propose his idea of the fingerprint recognition to a prison governor of Bengal State, India. A contribution by Mr Akisato Sato, a member of the Society.

- **1999 convention**

1999 convention of Herschel Society of Japan was held on 3rd November. Reports on the activities in 1999 and discussion on plans in 2000, etc.

Main Article

1999 total eclipse & English tour (3)

Three members of the Society of Mr Narita, Mr Ishibashi and I visited the Herschel Museum in Bath at 16:00 on 13th August. We met Ms Brown, an information clerk and inspected general exhibition and

closely watched a model of a 7-ft reflecting mirror telescope which was the same type as W Herschel found Uranus.

At 17:00 Prof Ring, the chairperson of William Herschel Society, came and told us that we were not permitted to take the reflecting mirror made by Herschel (loaned from an university and exhibited there) out of its case and have in our hands, though we sent a letter for permission in advance. This was because they had to prevent any risk to oxidize the mirror and Greenwich suddenly decided to end their loan of an eyepiece. He felt sorry, but this was beyond their control.

We proposed Prof Ring, who could not observe the eclipse in cloudy France, to watch video Mr Ishibashi recorded in Romania. He came to Platts' Hotel at once and enjoyed the total eclipse among clouds on screen together with a few people there.

At 16:00 on 16th, I went the Herschel Museum again and guided our group members (Mr Koizumi and Mr Shimojo). Then Prof Ring, Ms James of a curator and I had a meeting to discuss the plan of the memorial exhibition for Caroline Herschel's 250th anniversary. The exhibition will held in the Museum and its period is under negotiation among the persons concerned. We hope it will be in March as we planned at the beginning.

A plate of Caroline's portrait and other cloisonné works by Ms Iizawa, memorial stamps of Caroline's portrait in Mr Kagaya's collection, etc. will be offered from Japan for the exhibition. I showed samples of a brooch and other cloisonné souvenirs and proposed a spot sale of such souvenirs.

English translation by Tatsuro Kimura
